

Newsletter

Vol.20 2013.3.10

日本養護教諭養成大学協議会

日本養護教諭養成大学協議会

ニューズレターVol.20

会 長 岡田加奈子 (千葉大学)

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ 目 次 ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

| | | | |
|----------------------------|---|----------------------------|---|
| 協議会副会長挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 1 | 協議会活動報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 5 |
| 「養護教諭の資質向上を考える会」報告・・・・・・ | 2 | 事務局からのお知らせ・・・・・・・・・・・・・・・・ | 6 |
| 各種委員会報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 2 | 会計よりお願い・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 6 |
| 養成大学の展望 大学紹介ー北から南ー・・・・・・ | 4 | 編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 6 |



副会長挨拶

荒木田 美香子
(国際医療福祉大学)

今年度の岡田会長の新体制で総務担当の副会長を務めることになりました。昨年度3月の引き継ぎから、責任の大きさを感ずると共に、あわただしい日を過ごしています。

2012年には中央審議会からいくつかの答申が出されました。1つは2012年8月に公表された「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」

(http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325092.htm)であり、本協議会の会員校にも配布されたところです。

同時期に「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」

(http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm)という答申が出されました。この答申では、現在を「将来の予測が困難な時代」と位置付け、今、最も求められているのは、我が国が目指すべき社会像を描く知的な構想力であるとし、以

下のような能力をもった人材の育成を求めています。

1. 答えのない問題に解を見出していくための批判的、合理的な思考力等の認知的能力
2. チームワークやリーダーシップを発揮して社会的責任を担う、倫理的、社会的能力
3. 総合的かつ持続的な学修経験に基づく創造力と構想力
4. 想定外の困難に際して的確な判断ができるための基盤となる教養、知識、経験

報告書の中で、大学教育の大きな問題として取り上げているのは、日本の学生の学修時間が短いこと(学期中1日平均4.6時間、ただし、理学、保健、芸術分野は相対的に学修時間が長い傾向)であり、方策として、学生の主体的な学修の体験、ディスカッションやディベートといった双方向の授業や教室外学修プログラムの推進を提案しています。教職実践演習はまさにこのような工夫が取り入れられて実践される科目であり、本協議会でもフォーラムなどで情報提供を行ってきたところです。しかし、それだけではなく今まさに1年生からの教育の中身が問い直されていると言えます。

大学もそうですが、教師こそ予測が困難な時代を生き抜く力強い子どもたちを育成する最前線にいます。メイヤロフは「ケアする人はケアされることによって育成される」といっていますが、優れた教育者もよい

教育を受けて育つと考えると教員養成大学の責任の大きさを感ずるところです。

本協議会は 53 大学の会員校で発足しましたが、2012 年末には 113 校と約 2 倍の規模となりました。しかし、今期は経費削減のために理事数を減らし 10 人の理事で運営しておりその業務量に四苦八苦しているところ。そのような中、総務担当副会長として、皆様の意見をいただきながら、スムーズな協議会運営に努めると共に、自己成長力と基礎力を兼ね備えた養護教諭養成に役立つ情報と話し合える場を提供することに尽力したいという思いを新たにしています。

養護教諭の資質向上を考える会 ～全国養護教諭連絡協議会と日本養護教諭 養成大学協議会～

2013 年 1 月 12 日(土)

会長 岡田 加奈子(千葉大学)

養護教諭の職能団体としては、最も大規模である全国養護教諭連絡協議会と日本養護教諭養成大学協議会の役員等が集まり、養護教諭の資質向上についての検討や情報交換を行う「養護教諭の資質向上を考える会」を例年 1～2 回程度行っております。今年度は、2013 年 1 月 12 日(土)に全国養護教諭連絡協議会の事務局がある日本女子会館小会議室で行いました。全国養護教諭連絡協議会からは、会長(堀田)、副会長(永田・濁川、鈴木)、常務理事・事務局長らが参加され、日本養護教諭養成大学協議会からは、会長(岡田)・副会長(荒木田・大原)・事務局(櫻田)が出席いたしました。全国養護教諭連絡協議会側からの依頼で、中央教育審議会より 2012 年 8 月 28 日に出された「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について(答申)」について、岡田が説明を行い、続いて、質疑応答を行いました。

全国養護教諭連絡協議会側からは、今後免許更新制がどうなるのか(発展的に修士レベル化に組み入れられていくことが想定される)、教育的な観点から養護教諭の現職教育を支援する大学がない県があるなど、多くの質問や意見が出されました。

また、現代的な課題に対応するための養護教諭の資質能力として、若い養護教諭の中には「コミュニケーションの能力が低い」「応急処置ができない」「勉強はできる」が「有能な教員を上手に活用するようなコー

ディネート能力を発揮することができない」人がいるといった若い養護教諭の現状と養成大学の教育への期待が出されました。

日本養護教諭養成大学協議会側からは、大学教員の定員削減の現状や新規科目「教職実践演習」の開講など、大学の現状の説明を行い、相互の理解が深まり、充実した会となりました。両協議会が同じ方向を見据え、力を合わせて養護教諭養成や研修、または教育政策に関する提案等を行っていききたいという、想いを共有した会となりました。

各種委員会報告

「養成制度検討委員会」 活動報告

委員長 後藤 ひとみ

(愛知教育大学)

総会後に行った第 1 回委員会(9 月 7 日/東京)において、まずは養護教諭養成を取り巻く状況や新たな教員制度の動きを委員会全体で共通理解することになりました。第 2 回委員会(12 月 2 日/名古屋)では、2011 年度に行った会員対象調査結果をもとに、①現行の教員免許制度について、②新たな教員免許制度について、③これからの養護教諭養成について、④専任教員を置くことについての意見交換を行いました。

次に、中央教育審議会答申「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」(2012.8.28)の学習を深めるべく、教員の資質能力向上に係る当面の改善方策の実施に向けた協力者会議の動きと立ち上げられたワーキンググループ(WG)の役割などを確認しました。さらに、①修士レベルの教員養成課程の改善に関する WG の論点について、②教職課程の質の保証等に関する WG の論点についての資料を全員で読み込み、養護教諭養成にかかわるであろう課題の掌握に努めました。

第 3 回委員会は 2 月 18 日に予定しており、養護教諭養成にかかわる継続課題(課程認定や専任教員のことなど)と新たな課題(修士レベル化のことなど)の二面から委員会としての次年度の取り組みを検討したいと思っています。



「カリキュラム検討委員会」 活動報告

委員長 大原 榮子

(名古屋学芸大学短期大学部)



本委員会では、文部科学省から出された「教職生活全体を通じた教員の資質向上の総合的な向上方策について」を受けて、修士レベル化にどのように対応していくかに取り組んでいます。その第一歩として、今年度は、現行の養護教諭免許法がどのような経過で制定されてきたかについて、これまで出された教育職員養成に関わる審議会答申の養護教諭養成を中心に読み解く学習をしています。その経緯を委員の共通認識とした上で、本委員会の検討を踏まえ、理事会が2012年度版として提案した「養護に関する科目」改定案について今一度振り返り、「教職に関する科目」を含め、養護教諭養成カリキュラムの構造化を検討していきたいと考えています。さらに一般教諭等のカリキュラム及び近接領域の保健師養成のカリキュラムや現代の子どもの実態の基礎資料集めをする中から、今後の養護専門科目及び教職科目を含めたカリキュラムの検討を進めていく予定です。



「FD 検討委員会」 活動報告

委員長 荒木田 美香子

(国際医療福祉大学)



FD 検討委員会はテーマを「養護教諭養成に関する倫理教育の充実について」に定めて9人のメンバーで活動を行っています。今年度は9月11月1月3月の4回の会合を開催し、活発な活動をしています。具体的には、様々な文献から専門職としての養護教諭の倫理とは何か、および現場の養護教諭が直面している倫理的ジレンマ事例の検討を通して、養護教諭養成教育で倫理の何を、どのように教えるのかという検討を重ねています。個人的な感想ですが、FD 委員が挙げたジレンマ事例は興味深く、正解は無いかもしれませんが、このような事例を学生と考えることは非常に大きな意味があると、大きなヒントをもらった気がしています。



2011 年度各種委員会活動報告



前号に引き続き、2011年度の委員会活動について報告させていただきます。

養成制度検討委員会

2011 年度委員長 後藤ひとみ (愛知教育大学)

本委員会が企画した養成教育WS「これからの養護教諭養成の課題と展望」(2010年9月)の振り返りから、各大学が抱えている養成制度上の課題を把握するために計画していた会員校対象調査が、修士レベル化やカリキュラム等の内容も盛り込んだ役員会からの調査として実施されました。

養成制度に関する調査内容は、①現行の教員免許制度(開放制、課程認定、保健師免許と2種免許状取得)、②新たな教員免許制度(修士レベル化、基礎・一般・専門免許状(仮称))、③これからの養成のあり方(短大・特別別科、大学院)などで構成し、以前からの課題と新たな課題に対する意見を報告書にまとめました。

回答者の6~7割を占めた意見は、現行の教員免許制度に関しては、「養護学の専任を置くという規定にする」や「課程認定で読み替え措置を行わないようにする」、「保健師免許所有者が2種免許状を取得できる制度を廃止する」であり、新たな教員免許制度に関しては、「修士レベル化は教諭と同様に進める」、「専門免許状(仮称)の分野に学校保健を挙げる」でした。

また、2012年3月11日(日)には、文部科学省大臣官房教育改革調整官の日向氏(当時)を講師として、「修士レベル化を中心とした今後の教員養成制度の展望について」と題した学習会(委員9名含む15名参加)を行い、養護教諭養成における課題について意見交換しました。

FD 検討委員会

2011 年度委員長 池添 志乃 (高知県立大学)

2011年度FD検討委員会では、今後求められる質的向上に向けての教職実践演習のあり方について、重視すべき6つの視点について検討し、総会において報告させていただきました。1つは学士力および養護教諭としての教育実践力の育成を保障した各大学の教育理念に基づいた独自の教育課程を編成し、そこに教職実

実践演習を位置づけることの必要性についてです。そして、養護教諭養成において目指す資質能力を明確化すること、各大学の養護教諭養成課程における履修モデルを作成し、科目間の系統だった連携のもとで教職実践演習を展開することの重要性についても話し合いました。また、理論と実践を統合していくことが求められる教職実践演習において、学校現場や養成大学、行政機関とのネットワークを構築しながら、理論知と実践知を発展させ、教育実践力の育成に向けた学生主体の授業を展開していくことなどの必要性についても検討し、報告させていただきました。

教員が身近な存在であり、授業や学内活動を通して互いに高め合う姿がよく見られます。

養護教諭二種免許状の他に、医事管理士、医療管理秘書士、医療事務士、介護保険事務士の資格も取得できるため、卒業後は、養護教諭として、また取得した資格をいかし一般企業や病院、介護施設等で働いています。4年制大学へ編入学する学生もいます。こういった学生の後押しを全力で尽くしているところです。



養成大学の展望

大学紹介 北から南

愛知みずほ大学短期大学部
生活学科生活文化専攻
養護教諭コース 伊藤 美栄子

本学は1950（昭和25）年、日本で最初の短期大学として、創設されました。

今、全国で活用されている「母子健康手帳」は、本学の瀬木三雄・元理事長が考案したものです。

本学の教育目標は「健への教育」です。医学的・科学的な視点から食や健康について理解を深め、社会や家庭で力を発揮できる女性に成長して欲しいという思いが込められています。

養護教諭コースは、1969（昭和44）年に開設され、45周年を迎えようとしています。

養護教諭として必要な力が身につくように、一般教養はもちろんですが、教職教養や専門教育科目を学んでいます。実際の保健室を想定してつくられた「モデル保健室」での実習・演習で、ケガや病気の処置、子どもが抱える精神的な問題への向き合い方などを学んでいます。さらに、時代とともに変化する子ども達の問題上の問題を把握し、どう対応していくか、養護教諭をしていく上での基礎となる「教育観」「子ども観」「健康観」についても学んでいます。

養護教諭コースは人数も多くなく、少人数ならではのよい点がたくさんあります。みんなが意欲的に学んでいます。そして、同級生はもちろん、先輩、後輩、

北海道教育大学における養護教諭の養成の近況

北海道教育大学養護教育専攻

佐々木胤則

北海道教育大学では、7年前に大幅な組織改編を行い、旭川校と札幌校に置かれていた課程が札幌校に統合され、学生定員40名、教員定数12名で養護教育専攻としてスタートしました。40名の学生のうちおおよね半数は札幌市内と近郊の高等学校から4、5名が道外から、十数名が道内各地から入学してきています。教育大といっても現行の入試制度の中で、教員を志望しない学生も見受けられますが、養護教育専攻は、推薦、前期、後期、すべての選抜で面接・口述試験を課していることもあって、養護教諭への志向が高く、教職を含む専門科目の授業には意識的に取り組んでいると評価されています。

専攻のカリキュラムは、教育保健、医科学・看護学、心身相談の3分野を基礎とし、免許科目および養護の専門教育を整合させる形で整備されましたが、専門教育は再編前と基本的には変わらず行われてきました。当初から採用枠が僅かであったにもかかわらず、大部分の学生が札幌市、北海道、東北・関東方面の採用試験に臨み、養護教諭への高い意識が醸成されてきたと窺えます。ただし、再編当初から定員が充足されていなかった関係もあって、現職経験者採用による「養護概説」「健康相談活動」などの免許必修科目の充実が期待されましたが、未だに実現されていなく、学生からいつも指摘、要望されています。

さて大学では、しばしば改組が行われその都度、函館校の別科を除き、養護教諭養成課程は縮小され、30

年前より 60 名の定員減となっています。確かにこの間、北海道における養護教諭の採用数は減り続け、氷河期と呼ばれるほど厳しい状況が続いてきましたが、好転の兆しが見えてきました。いわゆる第 6 期の養護教諭時代として 70 年代に、全道のへき地・小規模校を中心とした公立学校への配置として大量に採用された先生方が定年を迎え、今後 10 年間で半数が入れ替わるとされています。一時的には、養成数が不足することも予測されます。今後は、養護教諭を志すすべての学生が子どもたちの健康問題解決や教育に携わることを想定した教育内容の充実（質保証）が必要とされる所です。



岐阜県立看護大学大学院
看護学研究科博士前期課程
—専攻の領域 育成期看護学—
世一 和子

「仕事をしながらの学修は大変でしたけど、仕事をしながらであったこそ学修できることも多かったです。」「看護師、保健師、助産師の方々と一緒に学修は刺激になりました。特にディスカッションを通して、自分の立場や指導・支援の専門性を振り返り、深く考えることができました。」等、本学大学院を修了した養護教諭からの声です。

岐阜県立看護大学大学院看護学研究科は、開学以来力を注いできた岐阜県下の看護師等、養護教諭との共同研究や、県下各地での研修会を基盤に平成 16 年に創設されました。教育の理念として、個人の尊厳と人権の尊重を基盤に据えた利用者中心のケアの在り方を追究し、広い視野から実践の改革を積極的に推進できる創造的・先駆的指導者層の育成を目指しています。特色は、職場在籍のまま履修で 3 年の長期在学コースとして、概ね平日（金曜日）と土曜日及び夏季集中で授業を行い、夜間帯の授業も行っています。

博士前期課程では、実践の改善・改革に直結する研究を実施します。養護教諭は育成期看護学領域を専攻して学修します。この領域は、人間のライフサイクルの中で次世代を育むという側面に焦点をあて、この時期固有の支援のあり方と方法を追究します。旧来の学

校看護学等を相対的に捉え、育成期として固有の視点から研究・開発されねばならない諸課題を取り上げ、養護教諭として次世代を育む援助において、専門性の高い実践活動とその研究開発ができる力を付けていきます。また、養護教諭専修免許状が取得できます。

教育課程は、必修として基本科目「医療・介護をめぐる倫理と人権」「コミュニティ経営学入門」、看護学共通科目「看護学教育論」「看護管理論」「看護学研究方法」「看護倫理」、専門科目・選択科目や、教職科目「教育学特殊研究」が開講されています。

今年度まで 4 名の養護教諭が修了し、取り組んだ研究テーマは「発達障害児およびその家族に対する養護教諭の支援」「心身の健康問題の深刻化を予防する児童支援体制の構築」等です。今後も、本学大学院で学修する養護教諭とともに現場の改善・改革に寄与できるよう努力していきたいと思っています。



協議会活動報告
事務局 鈴木 裕子 (国士舘大学)

【2012 年度第 6 回役員会】

日時：2012 年 12 月 22 日（土）10:00～12:00

場所：東京田町キャンパス・イノベーションセンター

出席者：荒木田、池添、大原、岡田、後藤、斉藤、櫻田、鈴木、三木、工藤（記録；千葉大学）

議事：「総会・フォーラムのアンケート結果」；総会開催時期の希望は「9 月上旬」が多数であった。開催場所は「現行通り」が多数であったが、会場が狭く机がないことや会場費の問題等が指摘された。フォーラムはわかりやすかったという感想が多かった。新規事業の「教育セミナー」については総会翌日開催の希望が多く、内容について様々な希望があった。平成 25 年 9 月 5 日（木）にセミナー、9 月 6 日（金）に総会とフォーラム開催、場所は東京田町「女性就業支援センター」の方向で調整することにした。

「本年度事業活動報告書について」；掲載内容と担当者の確認が行われた。

「理事の退職について」；退職する役員は年度末にて任期が終了すること、補充は選挙の次点者を候補者とし、総会の承認が得られるまでは空席とすることが確認された。

報告事項：「各種委員会活動」；各委員会から活動状況が報告された。

「事務局から」；新規加盟大学の登録手続きチャートを準備中であること、教育医事新聞名刺交換の広告について報告された。

「全国養護教諭連絡協議会について」；総会への会長の出席、連絡会議への三役及び事務局の参加について報告された。

「日本養護教諭教育学会 20 周年記念行事」；会長の参加および記念誌への寄稿が報告された。また用語集の頒布について紹介があった。

「広報関係」；雑誌への総会報告の掲載、日本教育医事新聞への会長インタビュー掲載の予定について報告された。



事務局からのお知らせ

2 大学が新規加盟されました。

- ・ 公立大学法人 大阪府立大学
地域保健学域 看護学類
代表評議員 北川末幾子 先生
- ・ 東京医療保健大学 看護学科 養護
代表評議員 砂村 京子 先生



ホームページ更新について

2012 年度総会および養成教育フォーラムの様子、会員大学の名簿につきまして、更新しておりますのでぜひご覧ください。ホームページでは、今後も先生方との双方向の情報共有の場として発展させていきたいと思っております。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

日本養護教諭養成大学協議会ホームページ：

「<http://www.j-yogo.jp/>」

ホームページ担当：三木とみ子（女子栄養大学）
池添 志乃（高知県立大学）

会計よりお願い

新入会員を迎え 2012 年 12 月末の会員校は 113 校（大学 100 校、短期大学 13 校）となりました。2013 年度より新たに養護教諭養成を始める大学をご存じでしたら、是非とも本会をお勧めいただくとともに、事務局にもご一報下さいませようお願いします。

会計担当：

津島 ひろ江（川崎医療福祉大学）
荒木田美香子（国際医療福祉大学）

☆☆ 編集後記 ☆☆

2012 年度を振り返ると、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」（答申）が示され、我が国の教員養成制度においても大きな変革の時代を迎えていることを実感する年となりました。これから求められる養護教諭の資質能力や養成大学としてのあり方を見据えながら、ニューズレターでも、会員校の発展につながる研究・協議の情報をお伝えしていければと思っております。

ニューズレターの新たな担当者として、会員の皆様にはたくさんのご支援をいただき、ありがとうございました。深く感謝いたします。さまざまな反省と学びをこれからの活動に活かしていきたいと思っております。来年度もどうぞよろしく願いいたします。

池添 志乃（高知県立大学）
斉藤ふくみ（茨城大学）

【事務局】 埼玉県立大学 櫻田 淳
Fax: 048-973-4374（事務局専用）
Tel : 048-973-4326（櫻田研究室）
E-mail : yogogimu@spu.ac.jp